

2002年 4月26日
川崎製鉄株式会社
フィリピン・シンター・コーポレーション

フィリピン・シンター・コーポレーション 操業25周年
～ 現地で記念式典を開催 ～

フィリピン・シンター・コーポレーション（以下、PSC）[本社：フィリピン メトロマニラ、社長：松本敏行] は、1977年4月に商業生産を開始して以来、25周年を迎えました。

操業開始から四半世紀を迎えたことを記念して、メトロマニラ マカティ市内においてフィリピン国政府関係者にもご出席いただき、下記の通り記念式典を執り行いました。

【操業25周年 記念式典概要】

日 時 : 4月25日(木) 18:30～21:00
場 所 : マカティ シャングリラ (メトロマニラ マカティ市内ホテル)
主な出席者 : (来賓) 政府高官及び大手銀行頭取をはじめとした実業界トップ
(PSC 関係) 取締役社長 松本 敏行 他
(川鉄関係) 取締役社長 数土 文夫 他
合 計 約 350名
内 容 : ・アロヨ大統領、ラモス元大統領、数土社長から、操業25周年に
ついてのメッセージ
・操業当初から現在に至るまでの映像紹介 等

【PSC 概要】

同社は川崎製鉄の 100%子会社であり、世界で唯一の焼結鉱石専門メーカーです。焼結工場は、首都マニラから南東へ 750km 離れたミンダナオ島北部カガヤン・デ・オロ市近郊の、フィリピン政府機関が開発した重工業団地の一角にあります。川崎製鉄が購入する鉄鉱石を焼成し、溶鉱炉の主要原料である焼結鉱石を製造・販売しております。なお、操業開始から現在までの累積出荷量は、約1億2百万トンに達しております。

【PSC 設立の経緯】

PSC設立の経緯としては、千葉製鉄所第6高炉の建設計画の際、その原料工場として建設が検討されたことがきっかけです。フィリピン国に建設されたのは、1967年から74年まで、当社が既にフィリピンでペレット生産事業を行っていたことから同国との信頼関係が非常に深かったこと、またミンダナオ島は台風の少ない良好な気候で、天然の水深の深い良港、廉価な電力や工業用水が得られたことがあげられます。更に、ブラジルや豪州からの輸送途上でフィリピン沖を航行することから、輸送ロスが少ないこともあり、同国への進出が決まりました。

PSCの設立と焼結工場の建設は、外資の導入による経済発展を切望していたフィリピン国政府と当社との間で1974年に合意されました。当時の金額で620億円というフィリピン国史上最大級の外資プロジェクトです。PSCは100%輸出企業として、長年にわたる外貨獲得によりフィリピン経済に非常に大きく貢献しております。また雇用、環境保護などを通じて地域社会においても重要な一員として迎えられています。

【今後の展望について】

PSCの操業技術および設備技術は川崎製鉄と同等の水準であり、国際標準ISO9002(品質)を1998年10月20日に取得したのに続き、ISO14001(環境)も2001年11月6日に取得しております。

これまで、生産量の大部分は千葉(68.7%)・水島(28.3%)製鉄所向に出荷してきており、川崎製鉄の大きな戦力となっております。米国・豪州・中国・インドなどへの輸出実績もあり、今後も世界唯一の焼結鉱専門メーカーとして世界への拡販を視野に入れながら、高品質な製鉄原料の安定供給に努めていく所存です。

なお、本年10月には、川崎製鉄は NKK と経営統合し、「JFE グループ」として新たなスタートを切ります。今後とも PSC は、JFE グループにおける原料サプライヤーとして、重要な役割を担ってまいります。

以上

(問合せ先) 川崎製鉄(株) 広報室 03-3597-3166

(ご参考)

フィリピンシンターコーポレーション(株)(Philippine Sinter Corporation)

- 社 長 : 松本敏行(川崎製鉄理事)
- 本 社 : フィリピン国メトロマニラ マカティ市
- 工 場 : ミンダナオ島カガヤン・デ・オロ市近郊のフィビデック工業団地内。
敷地面積約 119ha(東京ドームの約 25 倍)
- 設 立 : 1974 年 12 月
- 資本金 : 485 百万ペソ(1 ペソ:約 2.6 円)
- 売上高 : 1,407 百万ペソ(01 年 12 月期), 1,601 百万ペソ(00 年 12 期),
1,335 百万ペソ(99 年 12 期)
- 株 主 : 川崎製鉄 100%
- 事業内容 : 焼結鉱の製造・販売、消石灰・生石灰の製造・販売
- 生産能力 : 年間500万トン
- 従業員 : 195 名(2002 年 3 月末現在)、うち日本人 6 名
- 沿 革 :
- 1964 年 南部ルソンのララップ鉱山にて Philippine Iron Mines Inc.が川鉄との
技術提携によりペレット製造、日本への輸出を開始。
- 1967 年 10 月 Pellet Corporation of the Philippines (PCP)設立。
(川鉄グループが 90%出資)。ララップ鉱山事業を継承。
- 1974 年 6 月 鉄鉱石枯渇のため PCP 操業終了。ペレット累計出荷量 450 万トン。
- 1974 年 10 月 PHIVIDEC(フィリピン投資開発公社)の下部機関として、
Phividec Industrial Authority(PIA)[フィビデック工業開発公社]が設立さ
れ、PSC 建設予定地を含む区域(面積約 3,000ha)が指定される。
1974 年 10 月 PIA 誘致第 1 号企業として川崎製鉄が焼結工場建設を決定。
- 1974 年 12 月 PSC 設立。
- 1975 年 10 月 ボホール石灰石鉱山(ボホール島ガルシア・ヘルナンデス町)開発開始。
- 1977 年 2 月 ボホール石灰石鉱山操業開始。
- 1977 年 4 月 焼結工場操業開始。**
- 1977 年 5 月 焼結鉱出荷開始。
- 1980 年 6 月 Philippine Mining Service Corp. (PMSC) 設立(川鉄 40%, 川鉄鉱業 60%)
- 1981 年 10 月 PMSC ドロマイト鉱山(セブ島アルコイ町)操業開始
- 2001 年 4 月 PSC ボホール石灰石鉱山を PMSC に営業譲渡
- 2001 年 9 月 累計出荷量 1 億トンを達成。
※記念式典を開催
来賓として、PIA 執行最高責任者(COO)、地元町長、PSC 歴代役員
従業員、協力会社役員、社員など。
- 2002 年 4 月 操業 25 周年を迎える
- 以 上